

正誤表「湿式プロセス」(2018.11)

章	頁	該当箇所	誤	正
1	1	下4行	salvation	solvation
	3	下2行	溶液中	溶媒中
	10	図1.4	イオン平均活量係数 $f_{\pm}$	イオン平均活量
	18	式(1.49)	$n^{+}$	$m^{+}$
	18	式(1.50)	$n^{+}$	$m^{+}$
	18	式(1.50)	$\gamma_{\pm} c_{\pm}$	$\gamma_{\pm} c_{\pm}$
	18	8行	-9770 J	-9770 J mol <sup>-1</sup>
	18	9行	-9770 J	-9770 J mol <sup>-1</sup>
	18	12-13行	飽和溶解量は 7.18 モル	飽和溶解量は $\gamma_{\pm}=1$ の場合 7.18 モル
	18	14行	$1.28 \times 10^{-3}$	$1.28 \times 10^{-3} \text{ mol kg}^{-1}$
	18	14行	イオンの平均活量係数を1とすれば、	削除
	50	下2-1行	$a_{\text{FeOOH}}$ と水の活量が一定であるとすると $K$ は一定である	$a_{\text{FeOOH}}$ と水の活量は濃度にはほぼ等しいとすることがある
	58	6行	浸透法	置換法
	62	下6行	酸素との配位数が行っており	配位する酸素の数が異なっており
	63	[8]	Solutions	Solutions
2	77	式(2.9)	$pK_{s0}=38.7$	$K_{sp}=10^{-38.7}$
	77	式(2.10)	$pK_{s1}=27.5$	$K_{s1}=10^{-27.5}$
	77	式(2.11)	$pK_{s2}=16.6$	$K_{s2}=10^{-16.6}$
	77	式(2.12)	$pK_{s3}=4.5$	$K_{s3}=10^{-4.5}$
	77	式(2.13)	$pK_{s22}=51.9$	$K_{s22}=10^{-51.9}$
	78	式(2.15)	$pK_s, pK_{s1}, pK_{s2}, pK_{s3}, pK_{s22}$	$K_{sp}, K_{s1}, K_{s2}, K_{s3}, K_{s22}$

	78	式(2.16)	$pK_1=8.96$	$K_1=10^{-8.96}$
	78	式(2.17)	$pK_2=16.9$	$K_2=10^{-16.9}$
	78	式(2.18)	$pK_3=28.4$	$K_3=10^{-28.4}$
	78	式(2.19)	$pK_4=41.2$	$K_4=10^{-41.2}$
	78	12行	$K_i$ は逐次安定度係数である.	$K_i$ は各式の平衡定数である.
	78	式(2.20)	$pK_{sp}, pK_1, pK_2,$ $pK_3, pK_4$	$K_{sp}, K_1, K_2, K_3, K_4$
	78	式(2.20)	$pK_4 \cdot pK_{sp} \cdot 10^{-28+2pH}$	$K_4 \cdot K_{sp} \cdot 10^{28+2pH}$
	79	式(2.24)	$pK_1, pK_2$	$K_1, K_2$
	79	式(2.25)	$pK_1, pK_2$	$K_1, K_2$
	93	表 2.6	$\beta$ 壊変数	$\beta^-$ 壊変数
	98	式(2.41)	$R_2O_3 + CS_2 \rightarrow R_2O_2S + COS$	$R_2O_3 + 3CS_2 \rightarrow R_2S_3 + 3COS$
	101	6行	CST 吸着剤	CST(シリコチタネート吸着剤)
3	121	下6行	を示す. この結果	を示す. 図 3.5 に示した曲線はフ イッテングにより得られた曲線 で, 実測値とよく一致している. この結果
	129	下2行	キレート抽出系	イオン対抽出系
	132	図 3.11(a), (b)	$C_4Hg$	$C_4H_9$
	136	下9行	インジウム	イリジウム
	136	下8-7行	インジウムは $In(IV)$	イリジウムは $Ir(IV)$
	139	図 3.16	遠心抽出器	ミキサセトラ
	139	図 3.17	バルセータ	バルセータ
4	152	下5行	式(4.46)	式(4.4b)
5	201	図 5.4	$\log K_D$	$\log D$
	201	図 5.4	吸着挙動	抽出挙動

	201	7 行	平衡分配係数 $K_D$	平衡分配係数 $D$
	201	式(5.1)	$K_D$	$D$
	209	26-27 行	Cu(II)と Fe(s)の組み合わせでは, Cu(II)は Cu(s)まで還元されるので, これだけでもある程度の Cu の除去が可能である. それに加えて Fe も	Cu(II)と Fe(s)の組み合わせでは, 実際にはさらに還元が進行して Cu(II)は Cu(s)まで還元される, ある程度の Cu の溶液からの除去が可能である. また, Fe も
	217	図 5.14	$\log K_D$	$\log D$
付録 2	267	11 行	dispo <sub>r</sub> e	diaspo <sub>r</sub> e
	267	13 行	AlO <sub>2</sub> <sup>-</sup>	AlO <sub>2</sub> <sup>-</sup>
	267	17 行	Ag <sub>2</sub> S( $\infty$ )	Ag <sub>2</sub> S
	267	19 行	AgCN(c)	AgCN